

9月11日礼拝説教(隅野徹牧師)短縮版「わたしを信じる者は死んでも生きる」ヨハネ11:11～27

今回の箇所(25節と26節)でイエス・キリストは「わたしは復活であり命である。だからわたしを信じる者は、死んでも生きる。決して死ぬことはない」という「終わりの日に完成する救い」を「今現在にも与えられている希望」としてマルタに、そして私達一人ひとりに告げておられるのです。これと併せて、「このことを信じるか」という問いかけをイエスはなさっていますが、これが大切なポイントです。復活であり命であるイエス・キリストを信じる者は、今この人生において、「終わりの日に与えられる復活と永遠の命に確かにあずかる」、その恵みの体験は、イエス・キリストを救い主として信じることで「今この時、この場所で起る」のです。

この時点ではまだラザロは死んで墓に葬られたままです。悲しみと嘆きの状況は少しも変わっていないそんな中で、イエスが来て下さり、「わたしは復活であり、命である」と宣言して下さり、「あなたはこのことを信じるか」と問いかけられたのです。その問いに「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております」と答えるなかでマルタは、「あなたの兄弟は復活する」という言葉が実現することを確信したのです。

死の力を打ち破り、嘆き悲しみから解き放ち、新しく喜びをもって生かして下さるイエスの救いのみ業を体験したマルタと同じ経験を私たちはすることができることを希望をもって日々歩んでまいりましょう。(終)